

平成 26 年度
第 48 回 前期 東京都福祉保健局委託学術研修会

主催：(公社) 東京都鍼灸師会
平成 26 年 6 月 1 日 (日)

演題および講師

I. 認知症の病因と治療法

光メディカルクリニック
院長 福与 光昭

II. 「鍼灸における認知症の捉え方」 鍼灸師の仕事
～大事な頸・頭の技法～

「脳卒中・認知症予防」 鍼灸ネットワーク
代表 天野 寛敏

認知症の病因と治療法

光メディカルクリニック 院長 福与 光昭

この 10 年間認知症の治療は治らなかった。薬剤はアリセプトしかなく、一部の人には効いたが、一番介護に困っていた怒りっぽい性格の人（ピック型）には効かなかった。

当時は知識の欠如によりアルツハイマーだと診断していた。認知症の治療薬はだんだん増量して行くと言う方法が規定されており、今思うと当時の薬の使用法では改善できる可能性がなかった。

そういう制度にしたのはどこに課題があったのであろうか。NHKの認知症に

関する番組でコメントを求めるのは大学教授であるが、大学教授が診察している患者数は少なく、残念ながら患者の日常生活は見えていない。

現在、治療薬は保険薬で4種類に増えた。アリセプト、リバスタッチ、レミニール、メモリーである。それらのすべてで効き方が異なり、それらが効くタイプの患者がわかれば、認知症は治る可能性が高い。

認知症治療で困っていたところエキスパートを調べてコウノメソッドに出会った。Dr.コウノ（河野和彦氏）は、診察している患者数は日本一である。コウノメソッドに基づき臨床研究をすすめ、治療したら認知症の症状に大きな改善がみられた。こんなに治るのかと目から鱗であったが、他の実践医も同様な感想を述べている。

コウノメソッドの特徴は、

1. 治療第一主義。
2. 病型よりもキャラクターによって治療する。
3. 薬は少量を使用する。
4. 治療を医者まかせにせず、家族がさじ加減する。
5. 治療は介護している家族のためにも患者のためにも行う。
6. 出来得る限りの治療、良いものであればサプリメントも使用する。
7. 新しい疾患概念の提唱、L P C syndrome（レビー型とピック型の混合）
8. 歩行困難、会話困難な難病でも改善する例が認められる。
9. 治療を決して諦めない。
10. 認知症は治る。

今回は3大認知症疾患である「アルツハイマー型」、「前頭側頭葉型」、「レビー型」について主に述べる。

「鍼灸における認知症の捉え方」鍼灸師の仕事 ～大事な頸・頭の技法～

「脳卒中・認知症予防」鍼灸ネットワーク

代表 天野 寛敏

後半は天野が受け持たせていただきます。鍼灸学校のカリキュラムに「認知症概論」がありません。今回は「概論」ではなく、鍼灸師に必要な最低限の内容を用意させていただきました。参考になるDVDテキストも作成してみました。皆様との質疑をとおし研修を深めていきたいと願っております。